

「避難情報」にも「気象情報」にも「警戒レベル」があるので混乱しないように注意が必要です！

5段階の警戒レベルと防災気象情報

警戒レベル	住民が取るべき行動	市町村の対応	気象庁等の情報			相当する警戒レベル
5	命の危険 直ちに安全確保！ ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	大雨特別警報	キキクル (危険度分布)	氾濫発生情報	5相当
<警戒レベル4までに必ず避難！>						
4	危険な場所から全員避難 ・過去の重大な災害の発生時に匹敵する状況。この段階までに避難を完了しておく。 ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	避難指示 第4次防災体制 (災害対策本部設置)	土砂災害警戒情報	高潮警報	高潮特別警報	4相当
3	危険な場所から高齢者等は避難 ・高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	高齢者等避難 第3次防災体制 (避難指示の発令を判断できる体制)	大雨警報 洪水警報	※1 大雨警報に切り替える可能性が高い注意報	高潮警報に切り替える可能性が高い注意報	3相当
2	自らの避難行動を確認 ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	第2次防災体制 (高齢者等避難の発令を判断できる体制) 第1次防災体制 (連絡要員を配置)	大雨警報に切り替える可能性が高い注意報 大雨注意報 洪水注意報	注意報	高潮注意報	2相当
1	災害への心構えを高める	・心構えを一段高める ・職員の連絡体制を確認	早期注意情報 (警報級の可能性)			

※1 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3 (高齢者等避難) に相当します。
 ※2 「極めて危険」(濃い紫) が出現するまでに避難を完了しておくことが重要であり、「濃い紫」は大雨特別警報が発令された際の警戒レベル5緊急安全確保の発令対象区域の絞り込みを活用することが考えられます。

警戒レベル

警報

警戒レベル4「避難指示」が午前6時の時点で発令されている場合、**全学校園において自宅待機**

警戒レベル3「高齢者等避難」が午前6時の段階で発令されている場合、**倉敷支援学校と幼稚園において自宅待機**

特別警報(大雨・暴風・暴風雪・大雪)、警報(暴風)が午前6時の時点で発令されている場合は、**市内全域で自宅待機**

特別警報(高潮・波浪・大津波)、警報(大雨・洪水・高潮等)が午前6時の時点で発令されている場合は、**中学校区単位で自宅待機**

避難情報は「倉敷防災ポータル」で確認できます。



気象・防災情報は「おかやま防災ポータル」で確認できます。



「警戒レベル3」のように示されます。「相当」という表記はありません。

避難情報
倉敷市が発表

気象情報
気象庁(気象台)が発表

「警戒レベル3相当」のように示されます。「相当」という文言がついています。

学校園の休校は「警戒レベル」による

学校園の休校は「警報」による